

尙この他にも頗る多いが、要するに皆佛語である。  
 以上の外、朝鮮語とか、蝦夷語も甚だ多く、は入て  
 居るのであるが、これは、後に譲るとして、こゝに  
 は、たゞ大體を列舉したまで、ある。

(完)



# 講義

## 育兒學 (續)

中村 五六

### ○體溫。

幼兒が母體を離れて獨立の生活を營むに要する事柄  
 にて、右に述べましたる三の變化の外に、また一つの  
 變化即ち體溫の供給の變化があります。總ての溫血  
 動物は、一定の體溫を保つこと必要でありまして、其

の溫度が高いに過ぎ、または低きに失するときは苦し  
 みを受け、甚しき場合には死に至ります。此の危険を  
 避くる爲に、人間の體は身邊の空氣が自然の適度に合  
 はずとも、常に等しき溫度を保つやうに出來て居ます。

此の溫度は、健康なる大人にありては、攝氏三十七度  
 (華氏九十八度)であります。それで、人間の身體に溫  
 熱を生ずるの用意なきときは、速に冷却して夏季にて  
 も不幸に陥るの結果を免かれませぬ。これを救ふの用  
 意は、如何に出來て居ませうか。

體溫の起る第一の源は、食物であつて、これが發し  
 また廣がるのは、消化、呼吸、循環によりて出來るも  
 のですから、食物を給することは十分でなければなり  
 ませぬ。されども神經もまた體溫を保つに著しき力を  
 有して居ますれば、これが働きてゐますときは、體溫  
 はいつとも高く、働かざるるとき、たとへば眠れる間は常

に低きものです。故に肌寒き時、外氣にさらして眠らしむることの結果は、いつも宜しくないことになりま  
す。眠れるときには、覺めたるときに比べて、一層温  
暖なる被服を要するのは此の理に外なりませぬ。かつ  
また幼児の年齢が少ければ少きほど、眠れるときと覺  
めたるときとの體温の差は益々甚しく、従ひて注意の  
度も愈々増すべきものであります。

### ○新陳代謝。

前に述べましたる通り、幼児は生れ出でしときは大  
變化を身に受け、従ひて、其の疲勞も一方ならぬので  
す。さるに其の疲勞も漸く時を経て回復するにつれ、  
自然に食欲も起るものであつて、自身の胃中に食物を  
得るときは、始めて命をつなぐ爲に消化の働きを起し  
ます。此の働きは幼児の生活を支ふると、生長を遂ぐ  
るとの、二重の用をなして居りますれば、これが必要

なるは、呼吸、循環の上に出で、居ると云つて宜しか  
らうと思ひます。

斯く幼児生れては、其の生命も生長も、全く外部よ  
りの營養の供給に頼るものでありますれば、營養の器  
關は、各自に必要なだけの食物を消化し、また吸収  
するほどの發達をなして居なければなりません。され  
ども幼児の生れたては、其の腸も胃も幼兒唯一の營養  
たる乳を消化しまた吸収し得るに過ぎませぬ。殊に胃  
の如きは、其の形も唯筒狀をなして居る位です。

營養の仕懸は、既に備はりましても、なほこゝに食  
物の用をなしたる残りの不用部分即ちかすを排出する  
の用意が肝要です。此の用意に當れるものは、腸、腎  
臓、皮膚、肺臓でありまして、腸は糞便を排出し、ま  
た腎臓は尿水を、皮膚は汗汁を、肺臓は炭酸を排出し  
ますれば、此等は各々其の働きをよくして、疏通十分

なるやう注意することは最も大切です。然らざる時は病を起し、或は死に至ることがあります。

## 第二章 初生児の取扱

### ○沐浴。

新に生れ出でたる幼児は、極めて寒に冒され易きものであります。是れ終始高き温度の胎内より、夏もなほ比較上寒き此の世に俄に移り来るによるのです。そこで、生れたる幼児が達者にて、呼吸も自由に出来るときは直に温浴を致させます。これが世に云ふ初湯です。此の初湯の際は、身體何れの部分も冷えざるやう、又不潔の湯が眼に入らざるやう、擦り洗ひて皮膚を損せざるやうに、よく丁寧に注意して洗ひますれば、身體に付ける血液脂肪も容易々離れまして、石鹼等をも用ふる要はなき位であります。然らざるときは、皮膚の皺、臂や膝の曲り目、耳又は眼其の他平かならざる

部分には、粘液が附着するのが多くあります。

又沐浴に使用する布巾は、最も清潔のものを選ぶべきです。往々不潔のものをを用ふるによりて、恐るべき眼病等を感じることがあります。故に清水を以て眼または口中を拭ふのは、これなどの危険を防ぎますれば、務めて行ふべきことと思ひます。

湯は清潔にして、其の温度は體温以上即ち攝氏三十七度乃至四十度を適度と致します。又往々生児虚弱にして勢力をつくるの要あるときは、始め暫時湯中に入れたる後、其の温度を二三度計高むるを致します。

沐浴終るときは速に又柔に拭ひ乾かし、程よく暖めたる被服を被せ、また室内も暖かにしてすきま風など襲ひ來ぬよう注意すること肝要です。併し暖かならしめん爲に、盛なる火鉢の火などに近づかしむることは禁すべきことであります。

右の場合に用ふべき被服は、フランクネルをよしと申しますれど、其の皮膚非常に柔なるか、又は暑き天氣なほのときは木綿の類をよしと致します。そして呼吸に障りなきやう軽く緩に被せ暫時其のまゝに臥さしめて、幼児勢力の回復を待つのです。

### ○被服。

幼児の被服は軽きこと、柔かなること、又暖かなることの三要件を具ふべきものなれども、氣候時節に應じて變化せねばなりませぬ。製法は着脱き自由なるべく、身體を保護するに十分にまた胸や腸を抑壓せざるやう、手足の運動も自由なるやうに致し、殊に付紐にて胸を壓すが如きは最も戒しむべきことであります。

衣服を清潔にすべきは衛生上大切なことであります。すが、幼児の衣服に於ては殊に重んずべし事柄であります。そも清潔とは新奇又は華美の意味ではなく、汚

れず垢つかざるの譯なれば、下に垢つきたる肌衣を着て表面美しき服を纏はしめ、これを以て清潔の趣旨に適ひたりとの考へ誤りなきやう致したるものです。然るに世には斯る誤に陥り、其の實幼児に害を興へつゝあるものも尠からぬやうであります。

又世間によくあることですが、幼児の感冒を防ぐ爲なりとて、夏冬の別なく衣服を數枚重ねしむるのがあります。是等は却つて幼児の皮膚を軟弱にして、感冒に罹ることは益々多くなりませすれば、初より成るべく薄き衣服を以て育つるやう注意あるべきこと、思ひます。

總じて幼児の被服に付きては、専ら衛生法の命ずる所に従ひ、親の嗜好や時の流行などを顧るの餘地なきものと信じます。こゝに婦人の方々に向ひて一たび省慮あらんことを希望致します。